

数理科学による産業革新

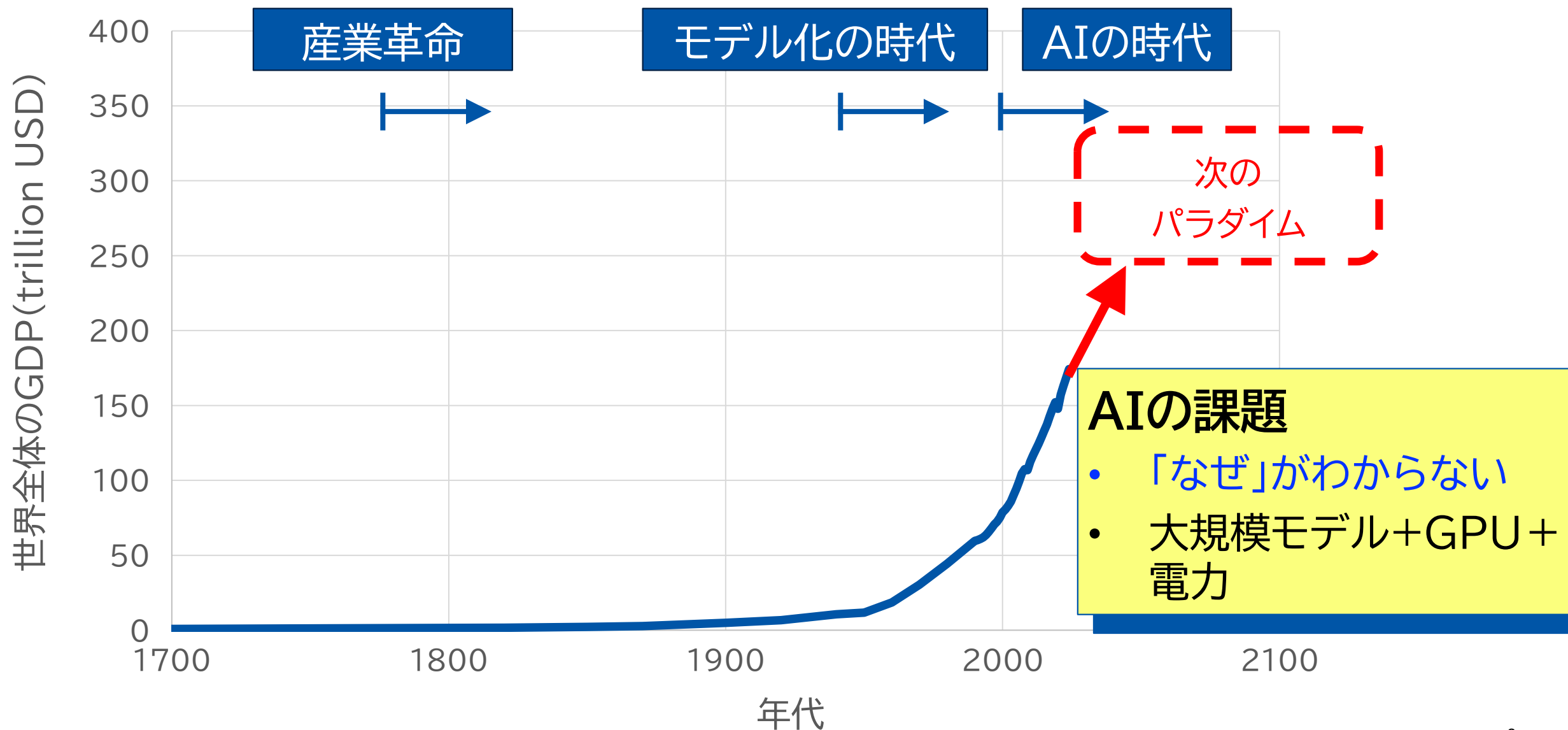
数理科学というもう一つの解

岡島 博司

2026年6月15日 NEDOサミット

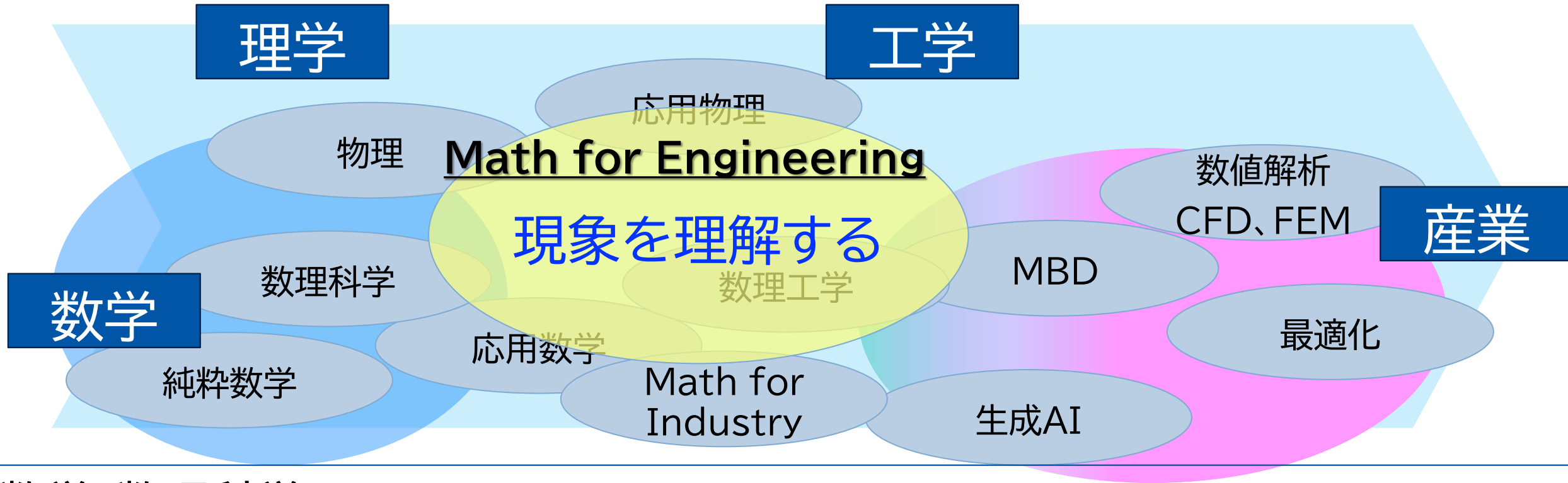


「なぜ」を解くことが、次のパラダイムを作る



一度、数理科学に立ち返る時代が来ている

「Math for Engineering」が重要



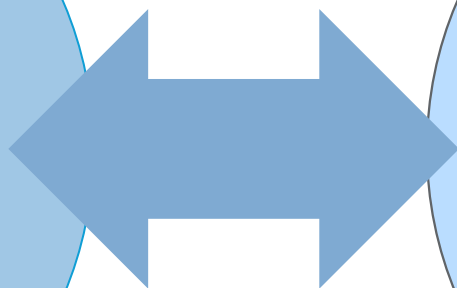
数学・数理科学はイノベーション

- 数学者が課題解決の現場を知る
- 産業界がツール利用から数学・数理科学を学び活用することが重要

数理科学の社会実装を進めるチャンスだ

数理科学

一般化・抽象化
(わかりにくい)
(なじみがない)
(現場から遠い)



AI

ニーズに即した答え
(わかりやすい)

工学

産業課題に対応
(なじみやすい)

なぜチャンスなのか

- ①ハードの進展とAIの活用始まる
- ②社会実装を目指す数理研究者が現れる
- ③ものづくり産業の危機感

産業界は数理基盤の価値に期待している

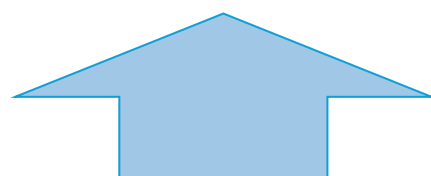
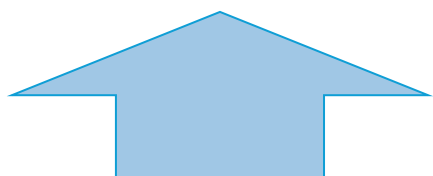
製造業

(材料探索・設計・検査)

医療・健康

(早期診断・意思決定支援)

エネルギー・
物流・通信
(フローの最適化)



かたち うごき つながりを捉える 数理基盤
(AI・Engineeringと融合)

NEDOが数理科学と産業をつなぐ



対象者

アカデミア: 数理科学(幾何学・トポロジー)を
社会実装してみたい研究者

産業界: 現場の課題を数理科学で解いて
みたい技術者

ソフトベンダー: 数理を強みにしたソフトをつくりたい企業



RFIにご提案ください

NEDOのマッチング支援を通じて、
数理科学が産業で使われる最初の一步をつくります